

集合住宅で災害 その時あなたは？

—マンションなどの防災と地域連携—

製作：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(通称：JKB) 発行：川崎市男女共同参画センター(愛称：すくらむ21)

防災・減災講座
第4弾を開催

1月27日(火)約70名の参加者がすくらむ21ホールに集まりました。この日、私たちJKBは講師に相川洋明氏(工学博士, NPO法人かわさきマンション管理組合ネットワーク会長)とマンション管理士である横倉啓子氏をお迎えし、「集合住宅で災害 その時あなたは?」と題して、中低層階マンションの防災について、それぞれ話をいただきました。

限られた時間にもかかわらず、集合住宅ならではの留意点や実際のマンション内でのコミュニケーションの取り方など、興味深い内容も多く、有意義な講演となりました。

最後に、JKBよりマンションの防災マニュアル作成への提案として、実際に自身の住むマンション内で有志を募り、マニュアルを作成したメンバーが、一話完結型の内容で回覧版のように回して住民で共有しながらの周知方法、出入り口の確保や防犯の考え方等、実用的なマニュアル作りの事例をパワーポイントで紹介しました。

集合住宅の防災と地域連携

今できることから始めよう!!

横倉 啓子氏

マンションの防災の課題は、災害時においてもマンションでの生活ができるように、マンションごと自立して対応することが求められるということでした。つまり、災害が起きると管理会社も被災している可能性も高く、対応や援助を待っていただける状況ではないことが想定されます。そうすると、マンションと地域との連携や、マンションに住む住民同士が互いに協力しあうことが大切であるということでした。

日頃からマンション内で顔見知りがあると万が一の時に心強く、ほどよい距離感を保ちながら、お互い様感覚の関係の種を植え、育てていくことが大切。その一例として、マンションの防災訓練時に横倉氏オリジナルの「防災とコミュニティ」といった備蓄品を試食したりしながら、互いが防災訓練を通してのコミュニティ作りを推奨しておられました。



集合住宅における機械設備の防災対策

相川 洋明氏

機械設備は、外からは見えない部分が大半であるため、災害による設備の被害においては、なかなか素人では使用可能かの判断は難しい。しかし、機械設備に精通している住民がマンション内にいると、被害への対応もスムーズになるだろうとのことでした。日頃からそのような情報を持ちつつ、各自が災害発生時の電気やガス、水の使用についての留意点を理解し、必要なものを備えることが必要であることを実感しました。



マンションマニュアルを作ろう!

JKBメンバー

皆さんはご自身が住んでいるマンションの防災マニュアルはお持ちでしょうか?もし、お持ちであっても分厚いマニュアルではなかなか読む時間がとれないのではないかと思います。そこで提案したのが、「一話完結の回覧板方式」の防災マニュアル作りです。

防災に関するテーマを一話完結にし、A4サイズ一枚程度を各戸に回覧していく方法です。

メリットは、全戸配布よりも費用が安価、継続的に防災意識を持つことができる、また回覧することで居住者同士が共通の防災情報を共有できることです。立地やマンション世帯数規模など個別性が強い面もあるので、一般的な防災情報だけでなく、それぞれに応じたマニュアル作りが必要となるのではないのでしょうか?ぜひ、まずはご自身の手元に防災マニュアルがあるのか、確認から始めてみましょう。

近年、住宅事情は様変わりし、集合住宅は戸建て住宅と異なり、災害規模にもよりますが、マンション外部からの支援に全てを期待することは困難です。避難所は災害により家屋の倒壊・焼失など被害を受け生活が困難な人、または二次被害を受ける恐れがある人を一時的に収容・保護して、生活機能を確認する場所です。

集合住宅では、集合住宅に暮らす一人ひとりが防災・減災意識を日頃から持ち、備えることがとても重要です。なぜなら、都市部においては長期の自宅被災生活を強いられることが想定されるからです。事前にできる対策を行い、被災後も住み慣れた自宅での生活を継続することを目指しましょう。

「集合住宅の防災マニュアル作りガイド」ができました！

平成26年1月に開催した「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」(通称:JKB)と高津区が共催した講座「集合住宅で災害 その時あなたは？」の内容を編集し、高津区が作成しました。

集合住宅は、立地や規模、設備、居住者の構成などの事情は多様ですので、このマニュアルを参考にいただき、それぞれの集合住宅にあった、独自の防災マニュアルを作る際のヒントやきっかけとしてお勧めです。

詳細は、高津区危機管理担当のページからご覧いただけます。

【URL】 <http://www.city.kawasaki.jp/takatsu/page/0000054310.html>



活動メンバー募集中！

女性の視点でつくる かわさき防災プロジェクト(通称:JKB)

取り組み内容

① 防災に関する調査研究・情報発信！

他地域との視察交流会やヒアリング取材を防災ニュースレターとしてまとめ、発信しています。

「災害時のトイレ事情と対策編」冊子の作成も行いました。



③ 区や自主防災組織への 防災イベント・出前講座

日常の暮らしの中で、生活者としての知見を活かしてできることを積み重ね、わかりやすい防災、誰もが取り掛かりやすい防災をテーマにイベントや出前講座を実施しています。

② 講座の企画と運営

「トイレ」「集合住宅」「避難所運営」など災害時にこれだけは知っておきたい事情と対策等について講座を企画しイチから運営を手掛けています。



★定例会議について★

活動日：月1回(第3土曜午後)

場 所：すくらむ21

対 象：市内在住の女性10名

★申込方法★

すくらむ21配架の募集チラシをご覧ください。

★参加者の決定★

オリエンテーションをした上で、活動内容、活動趣旨をご理解いただける方については、メンバーとして次回以降のグループ活動・会議へご参加いただけます。

平成26年度の活動を振り返って

高津区あん・あんフェスタ

3月21日(土)JR武蔵溝ノ口駅コンコース内で、「高津区あん・あんフェスタ」にて私たちJKBもブース出展してきました。100人あまりの大勢の方々がお立ち寄りくださり、お子さま連れも多かったです。

今回は各ブースを回ると最後にプレゼントもあり、大盛況でした！

毎度の事ですが、災害時のトイレの必要性をお伝えすると共に、防災リュックサックや防災バストの大人用や子供用も実物を展示し、中身を見ていただいたりしました。

参加された方は、「持ち出し袋は作っているけれど中身は本当にこれで良いのかな~と思っていたので今日は確認できてよかったです」、「実際に防災リュックサックを背負って重さも体感できた」等のお声がありました。皆さんはご家族分の防災リュックサックや持ち出し袋をご準備されていますか？今一度点検してみませんか？



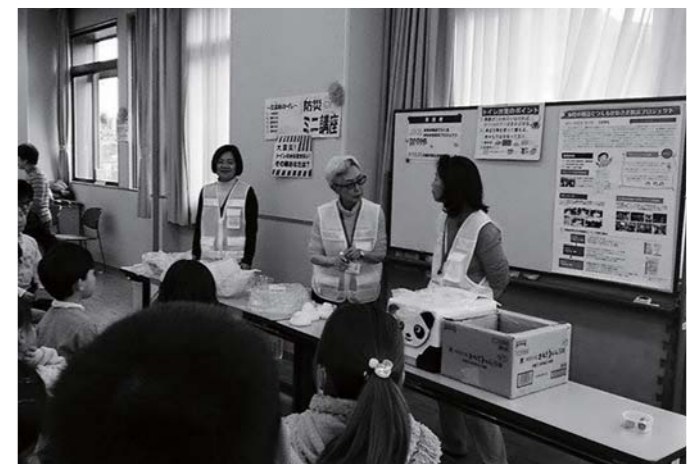
防災ワークショップ

3月14日(土)新川崎にある幸区日吉分館にて、地元で活動されている日吉の「わっ」さんが主催されている防災ワークショップに参加してきました。

私たちは、お子さん向けのトイレ講座を担当させて頂きました。地震でトイレが使えなくなったらどうする？と質問したら、「森へ行っておしっこをする」と、子どもらしい答えが返ってきて、ほっこりしました(笑)。

地震でトイレがどうして使えなくなるのかを簡単な紙芝居で伝え、お家でトイレの水が流せなくても、どんな材料を使えばおしっこを吸収するかなという実験をしました。

子どもたちは真剣な眼差しで私たちの話を聞いてくれ、感動しました。今後は子どもたちにも自助の大切さを伝えていきたいです。



▼平成27年度開催講座(9月下旬実施予定)

講座名 『集合住宅で災害~その時あなたは子どもの命を守れますか?~』

内 容 集合住宅の防災・減災の基礎知識と、大切な人を守るための方法について学びます。